

挑戦する気概

校長 檜尾 尚樹

4月、ここ角館は町中に桜が咲き、沸き立っている。多くの人々が雪国の春を謳歌し、人も自然も冬に蓄積した生命のエネルギーを一気に解放するかのようだ。秋田人は粘り強いと言われるが、冬の厳しい寒さと豪雪は確かに人の心も強くする。

角館高校は今年210名の新入生を迎え、650名の生徒が平成29年度の学校生活をスタートさせた。1年生は未知なる高校生活への希望に胸膨らませ、2年生は新しい進路コースで自分の夢を追う。そして、3年生は来たるべき受験・就職試験という、立ちふさがる最大の壁を乗り越えるために心を研ぎ澄ます。全ての生徒諸君がこれからの高校生活において、目指す進路目標に挑戦し、自分の人生を切り開いてもらいたいと強く願う。

様々な経験をしてきた年長者として君達に伝えたいことがある。「挑戦しても願いが必ず叶うとは言い難い。しかし挑戦しなければ見ることができない景色がある。挑戦しなければ新しい自分に出会うことはできない。」今、心に誓って欲しいのは、目指す目標が困難なものであっても、常に挑戦する気概をもって高校時代を送って欲しいということだ。

私自身、今までの人生を振り返った時、若き日の悔いが残る事ばかりが思い出される。中学時代、部活動の最後の大会で、あの球に勇気を持ってとびつき捕っていたら。学生時代、指導教官にもっと自分がやりたい研究テーマについて本気で伝えていたら。教員となって間もない頃、担任する生徒の進路指導でもっと内面に深く入り込んで指導をしていたら等々。そういった後悔の念は決して忘れないものだ。そんな時、尊敬する先輩からのこんな言葉をもらった。「人は全力で挑戦した事がたとえ失敗に終わったとしても後悔はしないものだ。勇気を持って挑戦しなかったことに対して人は怒り、悔いるのだ。」

私達は、弱い自分を認めたくない時、失敗して惨めな思いをしたくない時、格好悪くて人に笑われそうな時、自分自身が本当にしたい事や言いたい事を飲み込んでしまうことが往々にしてある。しかし、先の言葉との出会いから、私は日々のちょっとした事にも後悔するくせに、一生に何度あるかわからない「挑戦」しなければならない時には、絶対に後悔をしたくないと考えるようになった。人生は一度しか経験することはできないし、自分の人生は自分の意思で選びたいと考えるようになった。未来に生きる生徒諸君はこれからの学校生活やその先の人生において、多くの勝負すべき機会に出会うであろう。しかし、どんな時でも目標から目を背けず、怯まず、恐れず、力を尽くして全力で挑戦して欲しいと思う。挑戦する壁が高ければ高いほど、堅固であれば堅固であるほど、越えられないもどかしさで悩み苦しむかもしれない。しかし、それを乗り越えた時こそ、最高の喜びとこれからの長い人生を生き抜く自信が得られるはずだ。

桜は花の時期を終えると、緑の葉を茂らせる。そして来年の春の花を準備し、長い眠りに入る。来年の春に桜の目を覚ますのは冬の厳しい寒さである。生徒諸君にもこの青春の苦しさつらさに耐え、自分の目指す進路目標に向かって、失敗を恐れず全力で挑戦して欲しい。そして、桜が厳しい寒さで花開くように、来たるべきそれぞれの春には、自分自身の花を満開に咲かせて欲しい。

最後に、私の好きな詩を贈ろう。

心に太陽を持って
嵐がふこうと 吹雪がこようと
天には黒雲 地には争いが絶えなかりと
いつも心に太陽を持って

くちびるには歌を持って
軽く、ほがらかに
自分のつとめ 自分のくらしに
よしや苦勞が絶えなかりと
いつも、くちびるに歌を持って

苦しんでいる人 悩んでいる人には
こう、励ましてやろう

「勇気を失うな くちびるに歌を持って 心に太陽を持って」

ドイツの詩人 ツェーザル・フライシュレン (訳・山本有三)